
プレスリリース

2017年 6月 7日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所

国立大学法人茨城大学

国立大学法人千葉大学

独立行政法人国立科学博物館

国立大学法人島根大学

有限会社アルプス調査所

国立大学法人神戸大学

復建調査設計株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

公立大学法人大阪市立大学

国立大学法人東京学芸大学

千葉県立中央博物館

滋賀県立琵琶湖博物館

国立大学法人九州大学

技研コンサル株式会社

国立大学法人信州大学

文化財調査コンサルタント株式会社

千葉県市原市の地層を地質時代の国際標準として申請 認定されれば地質時代のひとつが「チバニアン」に

茨城大学（学長：三村信男）の岡田誠教授、国立極地研究所（所長：白石和行）の菅沼悠介准教授、千葉大学（学長：徳久剛史）の亀尾浩司准教授、国立科学博物館（館長：林良博）の久保田好美研究員を中心とする22機関32名からなる研究グループは、千葉県市原市にある地層「千葉セクション」が地質時代の国際標準模式地（Global Boundary Stratotype Section and Point、GSSP）に認定されるよう、本日、国際地質科学連合（International Union of Geological Sciences、IUGS）の専門部会に提案申請書を提出します。千葉セクションは地質時代のうち、更新世の前期と中期の境界（約77万年前）を示しており、この境界のGSSP認定に向け、千葉セクションのほかに、イタリアにある2つの地層の申請書がそれぞれ提出される見込みです。

IUGSでの審査の結果、千葉セクションがGSSPとして選定された場合は、約77万年前～12万6千年前の地質時代に対する名称として「チバニアン」（「千葉の時代」の意）を提案します。

詳細は[国立極地研究所のサイト](#)をご覧ください。

国立研究開発法人海洋研究開発機構

広報部 報道課長 野口 剛